

平成24年度第2回「仙北市立病院等改革推進計画」検証市民委員会

議 事 録

◆日 時 平成25年1月9日（水）13：32～14：28

◆場 所 田沢湖健康増進センター 地域交流プラザ

◆出席者 【委員】 委員長他6名 合計7名
【病院事業】 両病院事務長等・医療局職員（事務局）

◆検証事項 1) 市立病院の平成24年度の上半期の運営状況について
2) 仙北市立病院等改革推進計画の進捗状況について
3) その他

1. 開会（13：32）

2. 医療局長あいさつ

皆様あけましておめでとうございます。本日は雪の多い中、寒い中おいでいただきありがとうございます。いま司会の方から話がありましたとおり、管理者所用のため本日欠席しておりますので、私の方からあいさつをさせていただきます。

本日の会議は本年度第2回目でございます。平成24年度上半期の病院の経営状況等についての検証をしていただくということでお集まりいただきましたので、どうかよろしく願いいたします。

3. 委員長あいさつ

皆さんあけましておめでとうございます。皆さんにおかれましては家族おそろいでよいお正月を迎えられたことと存じます。本当にお慶び申し上げます。

さて、今年も今日が9日目でございます。その間大変寒い日あるいは雪の多い日が多かったわけです。今日は幸いにしてこのような天気にも恵まれまして、大変良かったと思っております。そうした中皆様には本当に、この除排雪等で相当の苦勞をされたことと存じます。新聞を見ますと雪の事故が報道されております。どうか皆様におかれましては、このような事故のないように、あるいは自分の健康を保ちながらこの厳しい冬を乗り切っていただきたいと考えるわけです。

さて今日はそうした非常に寒い厳しい中にも関わらず皆様に平成24年度第2回目の検証委員会のご案内をいたしましてところ万障繰り合わせくださりご出席賜りまして、本当にありがとうございます。すでにご案内しておりますが、資料につきましては、配布になっていると存

じます。

今日の検証事項は2件であります。どうかひとついままでどおり忌憚のない意見あるいはご質問をいただきながら、検証していただきたいということを申し上げまして、開会のごあいさつといたします。ありがとうございました。

4. 検証事項

委員長

それではただちに会議に入ります。本日の出席委員は7名であります。定足数に達しておりますので、これより会議を進めてまいりたいと思います。

日程に従いまして、検証事項に入ってまいります。検証事項につきまして1点目の市立病院の平成24年度上半期の運営状況について議題といたします。説明を求めます。

—資料説明（事務局：医療局）—

資料1 「平成24年度上半期仙北市病院事業の総括事項」

資料2 「平成24年度上半期仙北市病院事業の実績」

資料3 「両病院上半期年次別入院・外来患者数の実績」

資料4 「両病院等上半期地区別利用者数（入院・外来）の推移」

資料5 「両病院上半期収支決算の状況（過去3年分）」

委員長

検証事項の1については、説明が終わりました。皆さんの方から、質問あるいはご意見を承ってまいりたいと思います。

委員

資料5に書いてありますが、角館総合病院の職員給与費がだいぶ圧縮されていて、全体の収益の増につながっていると思いますが、これは職員の人数が減っていることでの圧縮と見ていいのでしょうか。適正な職員数を目指していると思いますが、どのぐらいの人数が減ってこんな感じになったのでしょうか。

事務長（角館総合病院）

人件費については、かなり圧縮されています。先ほど説明がありました医師1名が減になっています。看護師は7名の減となっています。事務部門でも2人の減。診療部含めた全体で23年度から24年度では、11名の減となっています。

事務には基準がないのですが、その他については基準がありますので、人員の確保はしたいと思っておりますが、なかなかできません。今いる人数で回さざるを得ない状況でやっています。職員にかなり無理をしてもらっている部分もあるが、何とかかんとかその部分での減は、今回の収支については大きく影響している部分だと

思います。

委員

事務の方の人数も非常に厳しいということですが、現場の病院内のスタッフ的な部分については特に問題はないのですか。

事務長（角館総合病院）

看護師の方が基準を取るには、ギリギリの人数でやっている状況です。あまり入院患者が増えたりすると、基準を満たさなくなる可能性があるが、そこは何とか兼任しながらやったりしながら、基準を今のところはクリアできるようにやっています。

実際、採用をお願いしても、なかなか募集した人数に届かないのが、現状です。

委員長

他にありませんか。

委員長職務代理者

看護師さんやスタッフを募集した場合に応募者は多いのですか。少ないのですか。

事務長（角館総合病院）

来年度の採用予定は5名を募集したが、2名の応募しかなかった。来年からどうしようかと考えている。

委員長職務代理者

外国の例えばアジア系の方が新聞によるとずいぶん出てきて資格取っているいろいろな方面で仕事されていますが、だんだんそういうふうになってきていますが、この地方では応募者が少ないのですか。

事務長（角館総合病院）

非常に少ない状況です。外国人と今言われましたが、私たちも自治体病院ですので、国籍の問題がありますから、非常に難しい問題です。

委員

応募している対象は、新卒に限っていますか。

事務長（角館総合病院）

うちの方も田沢湖病院も、新卒含めてうちの方は30歳まで、田沢湖は35歳ま

で経験者を含めて募集しています。なかなか確保できないのは両方の病院共通の問題です。

委員

臨時職員の方はいますか。その方は職員になれないのですか。

事務長（角館総合病院）

います。職員になれない方もいます。准看護師は今採用していないので、准看護師の方はどうしても臨時という形にしかありません。

委員

ようするに、有資格者がそんなにいないということでしょう。

事務長（角館総合病院）

今あちらこちらに看護学校がたくさんできてきているはずなのですが、処遇面で優遇されているため、都会に流れる方が多い。自治体病院なのでそれに対抗するのはなかなか厳しい。一気に上げるのは不可能です。

委員長

他にありませんか。

委員

田沢湖病院は入院患者がすごく増えていますが、田沢湖の方も看護師さんはやっぱり足りないのですか。

事務長（田沢湖病院）

これだけ患者を増やすためには、看護師の数も増員しなければならない。正規に看護師を募集しても、なかなか来てもらえない状況で、いろいろな経験者を含めて個人的にお願いして、上半期で看護部門を5人増やしました。ただし臨時職員という形です。結局そういう方々の応援がないと看護基準をクリアできないので、給与費の中の賃金はかかるが、入院収益と料金収入の部分で増加につながりました。スタッフを4月から5人増やしています。

委員長

他にありませんか。

委員

収支の面を見ると、大変頑張られて改善されていると思います。なかなか黒字に

することは大変だと思うが、人の確保の問題などに少しでも回していければと思うのですが、実際に頼んでも来てくれる人がいないとなると大変だと思う。経営改革、改善についてはすごく努力されていると感じを受けました。

委員長

この件について、事務局から何かありませんか。

医療局長

今皆さんに検証していただいている計画は、平成21年3月に作った改善計画で、その当時の病院事業の状況をベースにして作ってあります。確かにその計画と現状を比べれば好転している状況ですが、実際の経営状況で行くと推進計画よりいいのでいいかといえば、現実には厳しい。

推進計画は平成25年度までの5か年計画で、26年度以降について当然新しい目標の設定が必要と思っている。そのことについては、平成25年度に取り組んでいかなければならないと考えているが、具体的などころにはまだ踏み込んでいない。今皆さんに検証していただいている推進計画についてはかなりの部分は目標値には近づいていると思う。

委員長職務代理者

私たちは半年に1回資料を見せてもらっているが、前回よりも今回は検討中が実施中になっていたりしていて、非常に前向きな姿勢でやっていることが、資料を見れば伝わってくる。

委員

非常にいろいろなところが改善されていて、資料を見る限りでは、いい方向に向かっていると感じます。念願の小児科の先生も常勤になって非常にありがたいし心強く思っている。

ただうちでも年末年始にかけて、病院にかかることが続いた。その時見て感じたことだが、救急で組合に行かざるを得ない場合がありそちらにも行ったが、上層部では数字を出して目標を立てて頑張っているが、そういう取組を一般の看護師含めてスタッフまで伝わっているのか疑問に感じる時があり、非常に残念だ。

たとえば、夜に電話をして救急に行き、いろんなスタッフと接したが、総合病院と組合病院を比べて時に、一部のスタッフで残念な態度というか言葉づかいがあった。ものすごく忙しく疲れている場合もあるだろうし、いろんな患者もいて患者が失礼な態度をとる場合もあると思うが、どうしてこんな言い方をするのかという感じのスタッフがごく数名いた。非常によく気が付いて動いてくれる方もいましたが、たまに残念な人がいると、ここはだめだと思ってしまう。

向こうの方に行けば、統一されているというか、どの人にもだいたい同じような

感じで接してくれた。この違いはなんだろうと家族で話をしたが、残念な人のせいでイメージが悪くなったり、気持ちを損なうことがあるので、こういう取組をしていることやよくなってきている状況を現場のスタッフと話をしているのでしょうか。していればいいのですが。

事務長（角館総合病院）

看護部が主に患者さんに接しているので、春先からその件に関しては口を酸っぱくして言ってきました。中には残念な職員が見受けられるのはたしかです。そのことについては、看護部長、師長会を通しながら、一生懸命接遇その他についてやっています。忙しからというのは理屈にならない、屁理屈だと口を酸っぱく言ってきましたが、まだいろいろな所から苦情を受けています。今日より明日、明日より明後日という感じで、徐々に良くなるように、一生懸命病院内で頑張っていますので、少しは良くなってきたと思っても苦情が出てきますので、これからも気を抜かないでやっていきたいと思っています。

このような取り組みについては、看護部の師長会その他管理会議等通しながら報告はしています。それが末端まで届いていると思っていたが、再度徹底しなければいけないと思っています。

委員長職務代理者

私は田沢湖病院で医者のようなことをいう看護師と本当に気持ちよくて感じのいい看護師とプラスとマイナス両面で接することができたので、やっぱりホッとしている。結局、人だからいろんな人もいるなと思いました。それでなくても人数が足りないのに、田沢湖ではそういう経験をしました。

委員

広報で今回見たが、田沢湖で夕方から診療しているのは、すごく心強いと思いました。その件に関して、医者とかスタッフの負担にはならないのでしょうか。

事務長（田沢湖病院）

火曜日と10月から木曜日も行っている夕暮れ診療のことだと思いますが、これまでは次の日の診療のため夕方に来る秋田大学の先生に診てもらっていましたが、24年度に入ってから外来の患者がちょっと落ちてきました。本来救急ができれば一番いいのですが、先生、スタッフの不足からまだ救急再開には至らない状況で、弱い体質の中で何ができるか検討して、月1回行っている管理者会議の中で、夕暮れ診療をもう1日増やしたらどうかと事務局側から提案しました。常勤の3人の先生が診ようと言ってくれまして、またスタッフからもみんなで頑張ろうという言葉が寄せられたので、すぐ10月1日から実行に移しました。

いち早く救急の再開を願っていますが、やれないとすればそれに代わるある程度

のものを市民の方々に安心と安全を提供する施策はないかと夕暮れ診療を1日増やしたということです。

委員

こういうことをやっているの知らなかったの、この辺の方々はご存じかもしれませんが、角館や西木の方にPRしてどんどん使ってもらえばいいと思います。

事務長（田沢湖病院）

わかりました。

委員

それは、内科診療だけですか。全科目ですか。

事務長（田沢湖病院）

基本的に外科も見ます。担当の先生について火曜日は内科系の先生ですが、院長がフォローする体制を取ってしまして、外科の患者は院長が対応しています。木曜日についても3人の先生がローテーションで回りますので、内科外科とも必ず待機する形にしていますので、基本的には外科系でも診察するスタンスで取り組んでいます。

委員

ここあたりの方々から、救急外来をやってくれればなという話を最近また耳にしました。目標として再開に向けていくのかお聞きしたい。

事務長（田沢湖病院）

前回の市民検証委員会でも、委員から強い要望も受けましたが、救急をやめる思いはありません。せっかくこれだけの施設を作って、当然救急対応の病院でしたし、今はとりあえずドクターをある程度固めなければ、どうしても現状の3人だけでは先生方の負担だけになる。そうでなくても医者が来ない時代にやめられていくのが怖い。まずはやれることだけの代替えの施策をしていますが、管理者を中心にドクターがもう少し増えてくれば、救急はやりたいと思っている。当然観光地としての使命の自治体病院でもありますので、再開するような向きで頑張っていますので、ご理解いただきたいと思います。

委員

頑張っていたきたいと思います。

委員長

他にありませんか。なければ検証1については、質疑を打ち切ります。

引き続き検証事項の2に移りたいと思います。仙北市立病院等改革推進計画の進捗状況について議題といたします。説明を求めます。

2) 仙北市立病院等推進計画の進捗状況について

—資料説明（事務局：医療局）

資料6 「市立病院等改革推進計画進捗状況」

委員長

以上で説明が終わりました。皆さんからのご質問やご意見を承ります。

委員

田沢湖病院の院外処方化の所が、当面は院内処方を継続となっておりますが、これは難しい事情があるのですか。

事務長（田沢湖病院）

推進計画策定の段階では、院外処方をやると決定していたようでした。ただ田沢湖病院はこのように厳しい経営が強いられている中で、現在の薬価購入の差益と院外に出した場合のコスト計算をすると自分の方で調剤して、仕入れた方が経営的にはまだ院内処方の方がメリットあるということで、院内処方を当面は継続したいということです。

もう一つの要因としては、地域的に田沢地区からのお年寄りの来院がものすごく多い。お年寄り家族の出勤に合わせて車に乗ってきて、半日病院にいて、お昼休みに一緒に帰るといったパターンが多く、院外処方をやった場合に処方箋を出して薬局へ行ってもらうというのは、地域性や患者の年齢層を考えると地域の実情にはそぐわないと思う。経営面と患者の利便性の問題2点を考慮して、当面は院内処方を続けたいということです。

これから薬価差がどんどんなくなってきて、経営的に院外処方をやらなければならないとなった場合には、考えなければならないが、現状では院内処方をやった方がメリットあるので続けさせてもらっています。

委員

角館病院も院内処方もやっていますよね。それは何か特別な理由でやられる方がいるのですか。私が月1回親戚を連れて行っていますが、中でもらっています。

事務長（角館総合病院）

院内処方入院だけです。救急で来た方場合も院内です。または労災や第三者行為の場合です。それ以外は基本的に院外処方です。

医事課長（角館総合病院）

1日10名とか土日に薬局が閉まっている場合もあるので、そういう場合は院内処方をする場合もある。基本的に院外です。

委員

院内の人もいるので、この区別ってなんだろうなと思っていました。

医事課長（角館総合病院）

院内でなければ出せない人の場合が院内ですけれども、それ以外は院外です。

委員長

他にありませんか。

委員

田沢湖の場合、どうしても出来なくなるまで、院内でやってもらいたい。お年寄りの人たちが窓口の隣で薬をもらえる病院は今なかなかないので、そういう意味では自治体病院でなければできないことかなと思いますので、やれるうちはやっていただきたい。

委員長

他にありませんか。他にないようですので、質疑を打ち切ります。したがって検証事項1、2につきましては、検証済みといたします。

3) その他について

委員長

その他について、事務局からありましたらお願いします。

医療局長

医師不足について、管理者を中心に県内だけではなく首都圏まで行ってお願いしている状況ですけれども、今年度今までで実績が上がったのは小児科の医者だけという状況です。これは仙北市だけの問題ではなく、秋田県全体の公的病院がそういう状況になっているということで、23年から秋田県が中心になって医師不足偏在改善計画というものを検討して、昨年11月に作っています。

その計画では、平成37年には医師不足は解消するという話になっています。県全体でもそういうレベルだということで、それまでの10年間どうするのかという話が県の計画の中でも踏み込んでいない。県としては、その医師不足の改善計画は、前からやっています。県として県立病院で働く医師以外の派遣するための県が採用する医師を増やすとやっています。秋田大学の方では医学部の定員を増やす、地域枠とか増やすとやっています。そういうのを含めても37年までかかるということになっている。それまでどうするのかという話になった時、先ほど言いましたように、管理者や院長の個人の人脈でしかやりようがないという状況になっている。

先ほど救急の話がありましたが、こういう状況の中で難しい。でも10年もこの状況が続いていいのかということはある。何かもっといい打開策がないのかと思っています。

委員長

他にありませんか。

事務長（田沢湖病院）

今、医療局長から医師不足の問題でありまして、田沢湖病院も常勤医3人しかおりません。行政、管理者いろいろなつてを使って医師の招へい活動をしているわけですけれども、先月の8日と9日に全国住民活動シンポジウムがありまして、田沢湖地区の5人の市民の方々に勉強会へ行っていただいた。私も同行したけれども、その中で医師を呼ぶためには、地域に魅力がないと医者は来ないという結論だった。そのためには医療関係者と行政と地域住民が三位一体となって地域の魅力を発信して、医者を確保する形にしないといけないということと、医者が来ていただけないとすれば、人数が少なくともずっとここにいていただける素地を作るために、医療スタッフに感謝の気持ちを伝えるような素地がないといけないという趣旨でした。

このようなことを地域住民の方々と今月の25日に報告会を兼ねて病院職員との意見交換会を開催する予定ですので、是非ともそういう住民活動に皆さんも含めてたくさんの市民の方々が参画できるような素地を作っていかなければいけないという思いもありますので、その節はご協力をお願いいたします。

委員長

角館からはありますか。

事務長（角館総合病院）

まだ正式には決まっていますが、今建築の計画がありまして、基本設計について去年の12月末に市民を含めた医師、その他大学病院の先生方からプロポーザル

の委員会を開いていただきまして、最適者1社と次点者1社を決定させていただき、今月中旬頃にその業者について公表する予定です。まだ業者の方を公表できませんが、そういう形で進んでいるとご報告いたします。

委員長

皆さんの方から特別何かありますか。

中村清春委員

新病院については、今ある診療科はほぼそのままですか。

事務長（角館総合病院）

外来に関しては、いままでどおりのものを実施したいと考えています。病棟についても規模は縮小しますが、今の診療科目は確保したいということです。そうしないと救急病院としての機能を維持するために最低限そこは確保しなければいけないと計画中です。

委員長

他にありませんか。なければ今日の検証委員会を閉じることにいたします。どうも皆さんご審議ありがとうございました

（終了14：28）